

4-① 駅前広場

A. 西口駅前広場の考え方
【短期的な対応】
○広場スペースのフラット化を行い、歩行者動線や広場の活用状況を将来の基盤施設整備に向けた検討素材に整理
【中長期的な対応】
○駅舎・駅ビルの建替えに合わせ、自由通路と連続した歩行者空間の確保
○新空港線「蒲蒲線」整備に合わせ、地下空間等の活用を視野に入れた駅前広場の整備

B. 東口駅前広場の考え方
【短期的な対応】
○駅直近街区の一部を駅前広場機能として活用した、バス乗降場の集約化など乗降施設の見直しと再配置
○限られたスペースの中で、効率的に安全な歩行者環境を確保する整備
【中長期的な対応】
○駅舎・駅ビルの建替えに合わせ、自由通路と連続する広場の立体的な利用も考慮した歩行者空間の確保
○周辺街区の建替えに際し、駅前広場と連動した歩行者空間の確保

まとめ
1. 東口駅前広場は、現状面積が大きく不足していることや、バス乗降場が多く、駅周辺部まで分散しており、面積拡張の検討とともに広場に置き込む必要な機能について方向性を整理する。
2. 西口駅前広場は、バス乗降場の配置と歩道空間の問題はあるが、全体計画については新空港線「蒲蒲線」整備の動向に合わせて検討を行う。短期的には、駅前広場のフラット化により、歩行者動線等の状況を踏まえて対応する。

短期的な対応のケーススタディ

・・・西口駅前広場・・・
■広場スペースのフラット化
広場南側の段差を解消し、歩行者動線に配慮した樹木、植栽マスの配置の見直し
■バリアフリー化
段差解消に合わせ、駅前広場全体のバリアフリー整備を実施する。
■利用状況の把握と検証
歩行者の流れとイベントスペースとしての活用状況を踏まえ、将来の整備の方向性の検討

・・・東口駅前広場・・・
■駅前広場東西南北方向への拡張検討
公共交通動線や新空港線「蒲蒲線」整備観点から、まずは南側方向への拡張による検討
■駅前広場に必要機能
①歩行者空間 ②バス乗降場
③タクシー乗降場 ④一般車乗降場
その他：バス・タクシー待機場
■南側に拡張した場合の配置の検討
ロータリー・アイランド案の基本的な形状でスタディしたが、蒲田の実状に合わせた更なる検討が必要

4-② 自転車駐車場

A. 自転車駐車場整備の考え方
【既存自転車駐車場の有効活用】
◆既存自転車駐車場利用の効率化
・駅近傍は買物利用等短時間利用を優先
・定期利用者の周辺施設への分散
・利用料金体系の見直し
【利用目的に応じた自転車駐車場の整備】
◆分散型の自転車駐車場による買物利用者への対応
・店舗の来客用自転車駐車場の設置
・空き地活用
・路上駐輪器の整備
◆附置義務規定の見直しによる民地での自転車駐車場の確保
◆公共自転車駐車場による定期利用者及び買物利用者対応
・暫定自転車駐車場解消のための新たな施設の設置
・既存施設と新たな施設による利用の効率化
・既存施設整備のための代替施設の確保

B. 公共自転車駐車場整備の考え方
【東口】
○暫定利用の解消が必要な施設の振替え(約2000台)
○駅前広場整備と連携した地下自転車駐車場の整備
○新設自転車駐車場の買物等の一時利用の収容
【西口】
○新空港線「蒲蒲線」整備に合わせた地下空間利用の可能性
【共通】
○既存施設の有効活用と分散型施設の整備

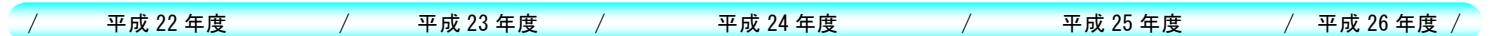
C. 地下自転車駐車場整備のケーススタディ
■自走式
A案：全平置き(2000台)
B案：2段ラック(1500台) + 平置き(500台)
■機械式
C案：茶筒型(1800台) + 一部平置き(200台)
D案：水平型(1000台) + 一部平置き(1000台)

4-③ 自由通路

A. 調査結果を踏まえた整理
○交通量に対するサービス水準は、やや制約のB(A~E)
○連絡通路の屈曲、テナントの存在等、異なる利用目的の路線が錯綜し利便性・快適性が不足
○東急コンコースの交通量が多く、東急改札・東口駅前広場間の移動歩行者も多数存在

B. 中間報告案検証を踏まえた検討の方向性
■東西自由通路整備は、鉄道関係施設や周辺街区の一部に大きく影響するため、短期的な整備が困難
■今後の駅舎・駅ビル更新の検討の中で、自由通路整備を含めて進める

6. ●検討フロー●



蒲田駅周辺整備計画策定調査研究会中間報告の作成	蒲田駅周辺整備計画(たたき台)の作成	蒲田駅周辺整備計画案の作成	蒲田駅周辺整備計画策定	整備計画事業化の検討
-------------------------	--------------------	---------------	-------------	------------